

夏ノ七裏

ぼえければ

つのかにのなにはの雲は夢なれや

あしのかれ葉に風わたるなり

大峯へおほみねの持經者へじきやうしやの宿に平等院へべうどうみんの名へな
かゝ

れたる卒都婆へそとはの侍りけるに紅葉へもみぢの

ちりかゝりけるをみて花よりほかのと有

ける人ぞかしとあはれに覚えて

あはれとてむ見し峯へみねに名を留へとめて

もみぢにけふはともとなりぬる